平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社グループホームほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみⅡ		
所在地	福岡県飯塚市勢田173-3		
自己評価作成日	平成24年　3月　7日	評価結果確定日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年　3月　23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に優しく接し、楽しく、安心して暮らせる環境を提供しています。
ホーム内は廊下を周回することができ、食事前の運動やリハビリに最適です。
また、レクリエーションやイベントなども充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

周辺に公園、バス停、店舗、住宅地がある地域に開所し、地域関係者の配慮でホームの立地から交流しやすい自治会に加入している。民生委員を兼ねる自治会長、老人会副会長、女性部長等が運営推進会議に参加され、地域の行事の際には、入居者のために椅子が準備されたり、避難訓練に地域の方の参加があったり、ボランティアや地域住民が日常的に立ち寄る関係ができている。また、理念を見直し、「入居者にほほえみ、家族にほほえみ、地域にほほえみ」と理念を定めている。外部研修受講や伝達講習を充実させ、入居者の思いを大切に、一人ひとりに合わせたケアで、重度化した入居者もお箸で食事を楽しんでいる。常に目線を合わせる関りの中で職員は、入居者の笑顔に元気をもらい、理念を具体化していく意義を感じている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　グループホームほほえみⅡ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の見直しを行い、短く、わかり易い内容に変更した。職員は理念を共有し実践につなげている。	職員と話し合い、「入居者にほほえみ、家族にほほえみ、地域にほほえみ」と理念を定め、玄関やリビングに掲示している。日々の関りの中で入居者の笑顔に元気をもらい、理念を具体化していく意義を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、盆踊りや運動会へ利用者全員が参加し、多数の公民館行事にも参加している。	日頃から地域の方の立ち寄りがあり、自治会の回覧板がまわって来る。地域の運動会や頴田祭り、盆踊りや養護施設の夏祭りに参加している。ホームのクリスマス会で幼稚園児と交流したり、カラオケや踊りのボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しに参加し、利用者と職員で手作りした作品等を展示物として出品している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や行事の報告等を中心に2ヶ月毎に開催している。非常災害時の協力体制や地域行事の情報収集を話し合い、サービス向上に活かしている。しかし、家族の参加がないため、家族の意見を聞くことができない。	適切なメンバーで2ヶ月毎に、開催している。行事や入居者の現状、ホームでの看取り等を報告し、委員から夜間帯の職員体制についてや、地域に泥棒が入ったので気をつけてほしい等の意見をいただいている。会議開催毎に、個人情報の漏洩防止の署名を求めている。会議録を整備し、玄関ホールに開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思った事や改善、向上についてのアドバイス等を受け、よりよいサービスの向上を目指している。	居室の空き状況の問合せやケースワーカーの訪問があり、情報を共有している。来訪している介護相談員の要望をうけ、運営推進会議に参加していただいている。車椅子利用者が増えたため、スロープの勾配の改善を行政に相談し、工事を終えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、身体拘束のないケアを実践している。利用者は危険のない範囲で自由にされている。	施設長が外部研修した資料を活用して、五つの基本的ケアの徹底に取組んでいる。夜間以外は施錠していない。入居間もない入居者が帰宅願望等がある時は、近隣の方々にも協力をお願いし、見守りで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、参加者した職員はミーティング等で全職員に報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、職員が制度に対する理解を深めるよう努めている。入所契約時には重要事項説明書に項目を設けて、説明をしている。また、ホーム内にパンフレットを掲示している。	権利擁護に関する外部研修に参加し、職員に伝達講習をしている。説明用のパンフレットを整備し、入居契約時に本人や家族に説明すると共に、玄関ホールに資料やパンフレットを掲示している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、認知症対応型共同生活介護の目的や提供場所について充分説明を行っている。不安や疑問点等はその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情体制について説明を行っている。ご家族との面会時には苦情、要望等をお聞きし、ミーティング等で話し合っている。	毎月、写真や手紙,事業所便り等で、入居者の暮らしぶりを家族に報告している。玄関にご意見箱を設置し、家族の来訪時には意見が言える雰囲気作りに留意している。「せりご飯が食べたい」「せりの白和えが食べたい」など入居者の要望を叶えたり、遠隔地の家族には電話などで、要望や意向を伺っている。	クリスマス会等の家族の参加が多い行事の折に、家族だけで話し合う場を設け、家族会として位置づけられてはいかがでしょうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き、職員の意見や提案を参考に改善を図っている。職員の意識を高めよりよいサービスを目指している。	毎月、定例の職員会議を全員参加で開催している。職員から、一人ひとりの身体能力に合った移乗が楽になるようなイスの選択や手摺の高さの変更が提案され、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のストレスの要因に気を配っている。職員の人間関係を把握するよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用・募集に関しては性別や年齢に関係なく介護職における基本姿勢等の資質を重視して採用している。	ハローワークを通じて募集しているが、年齢、性別、資格の有無は問わない。20から60歳代の職員が勤務している。就業規則を整備し、定期健康診断を支援し、休憩を交代でとれる体制にしている。外部研修受講や伝達講習で、勉強会を充実させている。ミーティングで資格取得を奨励し、シフト調整で支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市町村や他の団体が主催する、人権学習会等に職員が順番で参加している。常に人権に対する意識をもつよう取組んでいる。	福岡県認知症高齢者グループホーム協議会が主催する人権研修に参加したり、接遇の内部研修を実施している。入浴介助の際に、異性の介助を嫌がる方には同性介助に変更するなど、尊厳に配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に成長してもらう為、ローテーション等で研修を受けに行く機会を作っている。 日々、知識や技術等を指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近くのグループホームの職員と交流を持ち、相互訪問している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者、職員が情報を共有し、ご本人が不安に思っている事や希望されている事を、日常生活の中で耳を傾けるように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が希望していく生活観や安心して暮らせる為の要望等を聞きながら、関係を深めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の生活暦や嗜好、要望をよく聞き取り把握しながらサービスをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者を家族同然に温かく見守り、人生の先輩としても日々入所者に学んだり、支えあったりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく中で、必要に応じてご家族の協力も得ながら、安心して生活出来るよう支援していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各部屋に、ご家族の写真や好きなスターのポスターも貼る等努めている。	入居者の自宅の近隣の方が訪ねて来たり、親戚の訪問を受けて懇談されたり、、友人等の訪問も多い。行きたいところを聞き出し、以前、職員と毎月お墓参りに出かけた入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や好みを把握し、利用者同士の関係がスムーズに行われるようにかかわり、見守り支援するように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真やお手紙を送付し、いつでも相談が受けれるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や入所者から思い出話等をお聞きし、より本人本位である介助を目指し、支援するように努めている。	フェースシートに本人や家族から把握した、これまでの暮らしや職歴、趣味やこだわりなどを記録している。職員を担当制にすることで、日々の関わりから、意向や思いを把握している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者のこれまでの生活暦、大切な経験や出来事を把握し、その人らしい暮らしをホームの中で活かせる生活を支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、入所者から目を離さず手をかざす距離で見守る努力をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やミーティング時にスタッフ間で話し合い、今後の介護計画について検討している。御家族からは希望や要望を伺っている。	担当者会議を開催し、本人、家族の意向を反映した介護計画を作成している。2表に記載された具体的なサービスを全職員で共有している。職員会議で入居者の現状や気付いた点を意見交換し、モニタリング後計画を見直している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた点などを詳しく記入し、よりよい介護計画が立てられるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医による月一回の往診。状況に応じて、入院時はスタッフが着替えを届けたり、ご家族に状況を報告したりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会、老人会の協力ならびに支援を得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診、急な受診、予防接種等の支援を実施している。	協力医療機関や本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。重要な検査等には必ず家族の同行をお願いしているが、家族が同行できない場合は職員が同行している。受診結果を個別ファイルに記録し、家族に報告している。医療連携体制があり、毎月1回の往診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理を推進してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に見舞いに伺い、こまめに病状の経過等を聞いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になったときには、職員全員で快適に暮らせるよう努力し、改めて医師、御家族と話し合い意向に沿うようにしている。	重度化した場合や終末期に関する対応指針を整備し、入居契約時に本人や家族に説明している。必要に応じて、協力医に家族への説明をお願いしている。家族の意向等に寄り添い、いよいよの時が近づくと夜勤と管理者が泊り込み、家族と共にホームで見送っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはかかりつけ医と連携し指示を仰ぐようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員、自治会の方々と避難訓練を実施している。	災害対策マニュアルを整備し、スプリンクラーや自動通報装置、消火器を設置している。市のハザードマップを掲示し、避難場所を確認している。消防署の協力を得て、年2回入居者や地域の方と一緒に避難訓練を実施している。飲料水や非常食、ゼリー状の栄養食品など備蓄があるが、内容を検討中である。	重度化しつつある入居者の状況から、更なる安全確保のために、地元消防団との連携や救急蘇生法の研修の受講を検討していただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーの配慮について、外部の研修会や内部勉強会を行ってる。	入居者の人格を尊重したさりげないケアを心がけている。失禁時も「気にせんでいいとよ」と笑顔での対応に、入居者も安心して笑顔になっている。入居者の気持ちを大切に考えながら、穏やかに目線を合わせて支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者一人ひとりに合わせて外出したり、献立の希望等を聞いたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは流れに沿っているが、一人ひとりのペースを尊重し、気持ちを考慮した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師による散髪を定期的に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる入所者には手伝ってもらっている。献立は、入所者の希望があれば参考にしながら決めている。	食材の買出しに一緒に出掛けたり、ホームのまわりで土筆やセリを採っている。土筆のはかまを取ったり、コロッケを丸めて衣を付けたり、一緒に調理したりしている。全介助の入居者もいるが、見守りや声かけで全員が完食している。職員は、土筆の卵とじや揚げたてのコロッケを本人の目の前で大きさを尋ねながら食べよい大きさに切っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせて、飲み物・おやつ等を用意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な方には介助をして行うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、オムツの方は紙パンツに替え、トイレの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェク表で尿意や便意の有無、生活リズムや排泄パターン・サインを把握し、トイレに誘導している。歩行器を忘れて立ち上がる入居者に声かけし、後ろからついて行くなど、さりげない支援をしている。紙パンツやパットを活用しながら、トイレで排泄することを大切に支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の配慮、ラジオ体操、悪天候時以外の散歩などに努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は大まかで決まっているが、寛いだ入浴が出来るよう、入所者の希望に沿うようにしている。	希望で毎日入浴する入居者もいるが、週3回は楽しく寛いで入浴できるように支援している。天気が良い日は早く入浴して午後から外に散歩にいきたいとの希望が多いので、入居者の心情に添うよう支援している。現在、入浴拒否はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、自分のペース等を把握し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには処方された薬等がつづられており用法、用量を把握している。薬の変更や症状の変化等は、申し送りにて確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを活かし役割を作って意欲を持ってもらう。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物へ出かけており、また行事を通して地域へ出る機会を多く持てるようにしている。	日頃は食材の買出しに出かけたり、車椅子での外気浴や季節のせりや土筆を採って楽しんだりしている。ホーム隣の公園の桜の開花を心待ちにしている。外出計画でドライブや外食に出掛けたり、遠方の家族が3ヶ月毎に訪問され、一緒に食事に出掛ける入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理している。買い物の希望があれば同行し、支払時にお金を渡したりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者や御家族が電話や手紙のやり取りを希望した場合は、いつでも出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や設備など一般家庭と同様の物が使用されている。共同の居間は畳み敷きとなっており、家庭的な居心地のよい雰囲気である。	玄関に続くスロープは工事が終わり、車椅子での移動が容易になっている。玄関ホールには季節の花が飾られ、リビングの天窓から陽がさし、壁には入居者の笑顔の写真やちぎり絵や折り紙の作品が飾られている。テーブルや各入居者に合った椅子が設置され、窓の壁際のソファは気に入りの場所で、寛いだり昼寝をしたりしている。クロス張りの床を入居者は靴下で過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や、食卓で好きな場所に座られている。一人になりたい時には居室にて過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や使い慣れた生活用品、写真や絵などを置き、心地よく過ごせるように工夫している。	居室のカーペットは、汚れたらすぐに取替えられるように配慮されている。各居室は、入居者の大きな写真入りのネームプレートが目印になっている。ベットや整理ダンス、カーテンは備え付けだが、センサーの替わりに布団に鈴をつけたり、ナースコールの代わりに楽器を置いたりしている。家族写真や大好きな歌手の写真やポスターを飾ったり、愛用の家具や寝具、ソファ、仏壇など持ち込んだり自分らしく居心地よく過せるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器歩行、手すり使用等の個々の日常生活動作を把握し、その状況に応じて行えることを見つけている。 転倒しても怪我を最小限に抑えられるように床をカーペットに替えた。		